



ガス燃料船の省CO₂製造プロセスを実証するための高効率設備の導入等を支援します。

1. 事業目的

- ① 自治体と連携して、海事分野の脱炭素化に必要なガス燃料船の重要構成部品の省CO₂製造プロセスを確立し、もって地域の脱炭素化に貢献するモデル構築に向けた事業を支援する。
- ② ガス燃料タンクなどの重要構成部品の効率的な供給を通じて、ガス燃料船の普及拡大を加速化し、海事分野の脱炭素化を促進する。

2. 事業内容

令和3年度に入り、海運事業者がカーボンニュートラルの実現に向けたガス燃料船の導入計画を公表している。このように、海事分野の脱炭素化に向けてガス燃料船の需要が急速に拡大見込みである一方、LNG・アンモニア等のガス燃料に対応するため、従来の重油の燃料タンクとは異なる素材に防熱加工を施す必要がある。この特別な加工・工程の製造プロセスの省CO₂化を実現し、地域の脱炭素化を実現することが必要。

本事業では、自治体と連携してガス燃料船の重要構成部品の省CO₂な製造プロセスを確立し、他地域等に展開することで、地域の脱炭素化に貢献するとともに、ガス燃料船の普及拡大による海事分野の脱炭素化を促進する。

- ① ガス燃料タンク等の重要構成部品の省CO₂に資する製造プロセスの確立に係る設備投資支援【補助率：1/2】
- ② 自治体連携により省CO₂な製造プロセスの他地域・事業所への展開に係る調査【委託】

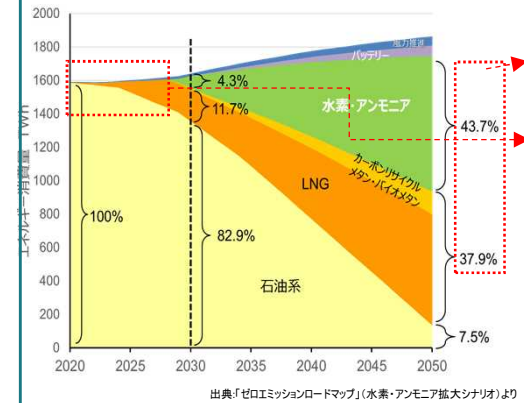
3. 事業スキーム

- 事業形態 ①直接補助事業、②委託
- 補助対象 自治体と船舶分野及び地域での脱炭素化に関する連携協定を締結した又は締結予定の民間事業者・団体
- 実施期間 令和3年度

4. 事業イメージ

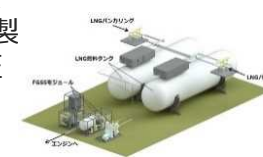
船舶分野における重油からガス燃料への転換プロセス、ガス燃料船の省CO₂製造プロセスの確立及び横展開

<2050年までの船用燃料消費量の予測>



- 2050年においてLNG、水素・アンモニア等の**ガス燃料の消費量が8割**と予測
- 内燃機関に適するガス燃料は**LNGから水素・アンモニア等に移行見込み**
- **LNGの技術的知見はカーボンリサイクルメタンに活用でき、水素・アンモニアにおいても応用可能**

- ガス燃料船の重要構成部品の省CO₂製造プロセスを実証
- 自治体と連携し、他地域にも展開。



自治体と連携

地域の経済・雇用の発展を促す
海事産業に対する支援要望

令和3年5月
海事産業の未来を拓く全国32市町村長会の会

全国32市町村も
要望書を提出